

総務省が行った2013年度の家計調査によると、夫が65歳以上、妻が60歳以上の夫婦2人の無職世帯では、毎月の消費支出は平均約24.2万円。食糧費が約6万円と総支出の4分の1を占めた。

一方、年金などの収入から税金・社会保険料を除いた可処分所得は平均で月額約18.5万円。単純計算で約5.7万円の”赤字”となり、不足分は預貯金からの取り崩しなどで補わなければならない状況だった。

試算例で、60歳で定年退職した夫が妻と2人で20年間生活すると、総計の出費は月額24.2万円×12か月×20年＝約5,800万円となる。さらに、趣味やレジャーも含めた「ゆとりある老後生活」を送るためには、月額35.4万円が必要というデータ（2013年生命保険文化センター調べ）もあり、その場合は総支出額が約8,500万円に膨らむ。

今後も、社会保障費の抑制で年金などの収入増は見込めないから、老後の暮らしには相応の負担増になることを念頭に置いて、貯蓄も含めた生活設計を考えておきたいものだ。（参考：総務省HPから）